



学校図書館 機能していますか!! No.2

過日配布した保護者向けリーフレット「子どもたちのすこやかな成長のために」で、生活習慣・学習習慣と学力について掲載しています。読書と学力の相関が高いことは、「全国学力・学習状況調査」の結果からも明らかです。質問紙調査においては「家や図書館で普段（月～金曜日）、1日にどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に全くしないと回答した子どもの割合は、小学校25.4%、中学校50.5%でした。

読書は、言語活動の充実だけではなく、子どもたちのすこやかな成長につながります。そのためにも、読書活動推進の場、本を親しめる場、学習・情報センターとしての学校図書館の機能を活性化させることが大切です。

今号では、市全体の学校図書館の機能を活性化させることを目的として実施している「学校図書館支援センター推進事業」（文部科学省委託）での実践を掲載しますので、参考にしてください。

行きたい・読みたい・調べたい 学校図書館をめざして…

掲示板の作製

子どもたちに本の情報を伝えるために学校図書館に掲示板を取り付け情報発信をすると、本を借りにくる子どもが増えました。

新しい本に生まれかわる

いたんでいる本を修理したり、何の本かわからなくなった背表紙をコンピュータなどで作成したりして本を再生すると、子どもたちは新刊と思い、貸し出し数が増えました。

分類を示す表示の工夫を

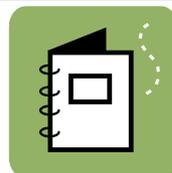
表示板を配線用のモールを活用してつくと、陽の光でそったりテープがゆるんで傾いたりということがなく、本を選びやすい環境になります。

2つの図書館を1つの図書館に

低学年用、高学年用に分かれている学校図書館を合併することによって、どの子どもも調べ学習用の資料や詳しい図鑑を手にとって見ることができ、学校図書館を利用する子どもが増えました。

おすすめ本の紹介カードを活用

よい本、すばらしい読み物に出あうことができるよう、おすすめ本の紹介カードを作成して活用すると、読書の楽しみがわかる子どもが増えました。



学校図書館が機能するために・・・ No.3

子ども達が本を返しながら本の整理を・・・

図書館の本が、最初は五十音順、分類番号順に整理されて並んでいても、本を返す時、表示に従って戻していかないと、本が返される毎に、だんだん違う場所に入るようになってしまいます。こうなってしまうと、「元の場所に返しましょう」と指導しても、本が正しい場所に戻らず、せっかく整理されていた図書館が、だんだん乱れていきます。

これを防ぐのは、子どもたちが書棚に本を戻すとき、正しい戻し方をする事です。そのためには、教師の声かけが大きな効果をあげます。

たとえば、『ごんぎつね』だったら、「ごんぎつねの最初の字は〈ご〉だから、かきくけこの〈ご〉の所に返しましょう。」とか、背ラベルを示して、472とあったら、「最初の数字が4だから表示板4のところ（4は自然科学です）に戻しましょう」「472の本は植物の本だから」「4の〈しょくぶつ〉という表示のある所に戻しましょう」とか、「本がさかさまに入らないように気をつけてね」などの声かけです。

教育委員会短信

再編整備した新湊小・はるみ小の児童や保護者の声

「いっしょになってよかった！」

堺市立新湊小学校「学校教育自己診断」（2学期末）、堺市立はるみ小学校2学期当初の「アンケート」では、児童も保護者も約7割～8割が「いっしょになってよかった！」などと再編整備を肯定的にとらえています。

【新湊小】 「いっしょになり、新しい学校になってよかったと思いますか？」

★児童（3～6年生）

「強くそう思う」59% 「そう思う」20%

●保護者

「強くそう思う」16% 「そう思う」51%

■1・2年の児童は、A強くそう思う81% Bそう思う13%を合わせると94%が、「いっしょになってよかった！」と回答。

【はるみ小】 「いっしょになってよかったですか？」

★児童（3～6年生）

「よかったと思う」65%

●保護者

「よかったと思う」81%

■「いっしょになって一番よかったこと」の理由NO. 1は、「友だちがたくさんできたこと」をあげた児童が、全体の約70%を占めた。

■「再編整備して、友だちからの刺激を受け積極性などプラス面が増えた」という保護者の声は約60%に達した。

入学にあたり、学校で必要な準備等に不安を抱いて、教育委員会にたずねてこられる保護者がおられます。それぞれに説明会等で十分お知らせいただいているところですが、「入学までの予定等を各学校園のホームページに掲載していただけたらありがたい」との声もあります。どうぞよろしくお願いいたします。